

アスパラガス伏せ込み促成栽培における 高温を利用した休眠打破技術

アスパラガス伏せ込み促成栽培では、休眠が覚醒した後に伏せ込みを行わないと収量が減少します。アスパラガスの休眠打破には、8℃以下の低温に一定期間遭遇することが必要であり、そのため、自然条件下では伏せ込み時期に年次変動があると同時に、地域によっては単価が高い年内出荷は困難になります。また、冷蔵施設を利用して休眠打破を図る場合、大型の施設とともに冷蔵コストが必要となります。近年、アスパラガスの休眠が高温によっても打破することが明らかとなったことから、岩手県農業研究センターでは、伏せ込み床での加温によって休眠を打破する技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 品種「ウェルカム」および「ウィンデル」は 28℃4 日以上の高温処理を行うことにより、80%以上の株の休眠が打破されます（図1）。
2. 伏せ込み床に電熱線を利用した場合、コントローラーの設定を 30℃とし、シルバーポリトウ等の資材で被覆することによって、休眠打破に必要な温度を得ることができます（図2）。
3. 本休眠打破技術を用いた生産方法は次のとおりです。
 - 1) 慣行法で株養成・根株の掘り取り・伏せ込みを行います。
 - 2) 伏せ込み後 10 日間～2 週間程度加温を行わず、吸収根の発生を促します。
 - 3) 伏せ込み床に被覆資材をかけた後、温度コントローラーの設定を 30℃とし、休眠打破に必要な期間、高温処理を行います。
 - 4) 高温処理が終了した後、温度コントローラーの設定を 16℃とします。

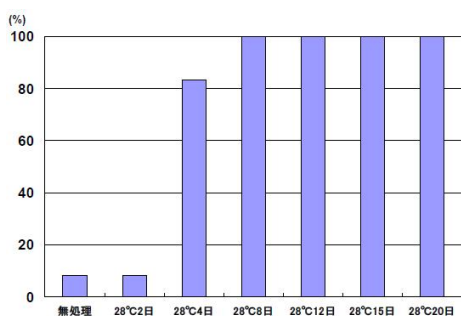


図1 高温処理期間の違いが休眠打破に与える影響
品種「ウェルカム」。処理終了 30 日後の萌芽株率



図2 伏せ込み床での高温処理

☆ 活用面での留意点

1. 伏せ込み後の加温しない期間に新たな吸収根の発生を促すことが極めて重要であるため、好天が続く場合は、ハウスを開放する等により伏せ込み床の地温を上げないように努めます。
2. 株養成を含めた詳細な栽培体系については「岩手県アスパラガス伏せ込み 促成栽培マニュアル（平成 28 年 3 月発行）」を参考にしてください。
3. 詳しいことは岩手県農業研究センター（TEL:0197-68-4420）へお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）